

【到達目標 学士課程の教育内容・方法等】

本学部はその理念・目的に「グローバルな視野を持ち、チャレンジ精神とボランティア精神に満ちた行動力ある学生を育成すること」を謳っている。そのために、入学した学生を語学と経済学の実力とともに目的意識を持ち主体的判断のできる人材に育てるべく、以下の諸点を具体的な到達目標と考えている。①青山スタンダード科目のプログラムによって幅広い教養教育を図るとともに、専門科目については段階的学習とゆるやかなコース制を軸にカリキュラムの体系的提示を図っていく。②少人数教育を通して学生と教師の距離を近くするため語学、ゼミ等の一層の充実・活性化を図る。③講演会等の手法で教員の研究プロジェクトの成果を学生に還元し、アカデミックな刺激と国際的学术交流へのきっかけを提供していく。④社会的実践的関心を高め、国際的視野を広めるための科目の充実を図っていく。

【到達目標 学生の受け入れ】

本学部の理念・目的の実現のためには、特定の型にはまった学生のみを受け入れるのではなく、多様な関心と才能を持つ者に学部の門戸を開放することが求められる。したがって、学生募集に際しては多様な一般入試、多様な推薦入試を実施するとともに、その姿勢を常に検証し、学部の提供する教育に関する情報を的確に社会に伝える必要があると考えている。また、学生定員を適切に維持することは合格者数の決定、留年・退学者等、多様な問題を含むため困難な作業であるが、過去の経験を踏まえて改善を図っていききたい。

【到達目標 教員組織】

教員組織は教育理念・目的が適切に実現されるよう作られるべきである。また、組織が円滑に運営されるためには、構成員間で情報が共有され、公平な負担が担保されることが求められる。そのために、以下の諸点を具体的な到達目標と考えている。①教員1人あたり学生数、教員1人あたりの担当コマ数については制度・財政の制約はあろうが継続的に検証し改善の方策を探ること。②1クラスあたりの学生数、重点的教育資源配置（少人数クラス）、大学院クラス担当の取扱い等については、学部教員の合意を得つつ、教育資源の効率的利用を図ること。③教員の募集については、公平・公正に最大限配慮しつつ研究・教育に意欲のある人材を得るべく規則に則り実施すること。④教育研究活動の評価に関しては、本学部では全学に先駆けて「経済学部授業評価アンケート」を実施した姿勢を維持し、教育の社会的責任を全うすべく評価と改善の好循環を維持すること。また、2004年に再構築した経済研究所を中心にプロジェクト形式で積極的に共同研究、海外との交流、その学生への還元がなされているが、当該活動の一層の充実を進めること。